

インターバンクの声（2016年6月2日）

今週は週末の米雇用統計の発表までは110円台中盤が中心となるようなドル円相場が続くと思われていたが、昨日の東京時間午後2時前頃から突然ドルが下がり始め、多くの市場参加者が戸惑いを見せていた。原油取引に関連した大きな取引があったとの噂や、ファンド勢のアルゴが働いたとの憶測、ユーロ・円や豪ドル・円の買い持ちポジションの調整が同時に吹き出し、その余波のほとんどがドル円に押し寄せたとの解説も飛んでいたが、真相は聞こえて来ない。とにかく世の中が特定の取引に関連する情報を漏らすことは勿論、聞くことも遠慮する『法令遵守』がインターバンク市場にも浸透しつつあり、相場変動の背景が把握しにくくなっている。以前のよう
に時間さえ経てば相場の背景を皆で共有できるような時代ではなくなってしまった。もともと、特定の取引の実態が分かったところで、いくら数十億ドル規模の巨額取引だとしても、世界中の一日の総取引量からすればバケツ一杯の水の中のコップ一杯程度のインパクトしかないはずだ。それでもディーラーに限らず、市場参加者の多くはそうしたコップ一杯の情報が欲しいのだ。時としてコップ一杯分の取引や情報がバケツ全体の水の色まで変えてしまうこともあるためだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。